

埼盲交通安全の日通信

No. 1

埼玉県立特別支援学校
埼保己一学園
生徒指導部・自立活動委員会
令和2年5月1日

今年度の「埼盲交通安全の日」の催しは、5月1日に体育館で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止と予防対策のため臨時休校で中止になりました。しかし本校にとっては、「埼盲交通安全の日」は大切な日です。そのため、今回は埼盲交通安全の日通信 No.1・No.2・No.3 をつくりました。通信 No.1 は由来と回想、No.2 は危険度チェック、No.3 は白杖について掲載します。この通信を読み、みなさんで安全な歩行について考えてみてください。

《由来》

1974年（昭和49年）5月2日、今から46年前、本校の高等部普通科1年生だった全盲の高橋節子さん、当時16歳が学校からの帰宅途中で、大宮駅の混雑した高崎線ホームから転落し、入ってきた電車にひかれ即死するという事故が起きました。当時は、大宮駅には点字ブロックはありませんでした。

それ以来、本校ではこのような事故のことを忘れないよう、そしてこの日にもう一度、自分自身の歩行や視覚障害者の歩行環境について考える日にしようと、5月2日を「埼盲交通安全の日」としました。

《回想》

この当時を知る元本校教諭の江口先生の回想文を紹介します。私は、本校の中で高橋節子さんを知っている数少ない1人かも知れませんが、彼女は「せっちゃん」と呼ばれ明るく活発な生徒でした。普通科の頃、英語が好きで将来は「英語の先生になりたい」と思っていました。そして、ビートルズが大好きで熱烈的なファンでもありました。せっちゃんが、よくビートルズの曲を口ずさんでいるのを聞いたりもしていました。

そして、せっちゃんは1人の職業人として自立するためにも、一人歩きをしようと、駅までのお母さんの送迎を断って、一人歩きをしていました。私も、何度かせっちゃんの歩いている姿を見たことがありました。こんな形で、せっちゃんが将来への夢と希望を断ち切られてしまったことは、本校の生徒、教職員にとって、とても衝撃でした。そして、このような事故を二度と繰り返さないためにどうしたらよいかを、何度も話し合いました。

皆さんの中で、これまで歩いていて、「危ない！」と思った経験をしたことがありますか？また、駅のホームから転落しそうになったり、実際に落ちてしまった経験がある人はいますか？

私の教えてきた生徒たちの中にもホームから転落した生徒が何人もいます。ある生徒は、電車と電車の連結部分をドアと勘違いをして、落ちてしまいました。恐怖で「たすけて！」という声が出なかったそうです。たまたま、見ていた人が助けてくれました。また、ある生徒は、ジュースを買っていて、発車のベルが鳴って慌てて電車に乗ろうとして、電車とホームの間に落ちました。その時は、ランドセルがひっかかって助かりました。そのようなことが、たくさんあると思います。

本校の卒業生でも近年では、2011年1月16日JR山の手線目白駅で武井実良（みよし）さん、2012年3月6日には東武東上線川越駅で橋本彰雄さんがホームから転落死するという痛ましい事故も未だにおきています。

駅のホームは「欄干のない橋」「ドアのない車」と言われるくらい危険です。そこを白杖1本で、人混みをよけながら歩くということは、むしろ転落しない方が不思議なくらいだと言われています。

これまで多くの人たちの運動で、可動式ホーム柵（ドア）の設置などが進められています。

街を、歩いていけば危険なところはたくさんあります。でも、安全な歩行を身につけながら、社会的にも歩行環境の整備を訴えながら、家に閉じこもらず、社会に出て行くこと、一人歩行をすることをやめないでほしいと思っています。

さいごに、一人歩行ができるようになった生徒の声「歩行ができるようになると、自分の世界が広がっていきます。」

みなさん、安全な歩行を身につけ世界を広げていってください。